

沖縄県大宜味村大兼久方言の動詞・形容詞の活用

中本謙（琉球大学）

1 沖縄県大宜味村大兼久の概要

大宜味村は、東シナ海に面し、北は国頭村、南は名護市に隣接している。また西は、脊梁山地となっており、東村に隣接している。東西に 8 km、南北に 14.4 kmの広さを持つが、村の総面積の 76%は森林となっている。

大兼久は、大宜味村のほぼ中央に位置する人口 115 人（2018 年）の集落である。方言の名称ではウフガニク、ハニクと呼ばれている。隣接する大宜味部落から 270 年ほど前に分離した部落であるといわれており、イリミ・ハニクと連称されることもある¹。

2 沖縄県大宜味村大兼久方言の概要²

大宜味村大兼久方言（以下、大兼久方言と称する）は、沖縄本島北部方言に属する。

音韻的特徴としては、沖縄北部方言に広く見られるように、大兼久方言でも現代日本語のハ行子音に対応する p 音、カ行子音に対応する h 音がみられる。具体的に主な特徴を示すと次の通りである。

①語頭において共通語のカに対応するものは、/k/→/h/により/ha/となる。

例. [hagami]（鏡）[ha:mi]（亀）

②語頭において共通語のケに対応するものは、/hi/となる。

例. [çi:]（毛）[çibuĩ]（煙）

③語頭において共通語のキに対応する/k^ʔi/、クに対応する/k^ʔu/がみられる。[k^ʔinnu:]（昨日）

例. [k^ʔiN]（衣）[k^ʔumuN]（汲む）

④共通語のコに対応するもの多くは、[hu]となる。

例. [hui]（声）[tahu]（たこ）

⑤共通語のハは、主に[ɸa]に対応する。

例. [ɸa:]（歯）[ɸana]（鼻）[ɸama]（浜）

[pasami]（はさみ）のように[pa]の例も少ないがみられる。

⑥共通語のヒ、フに対応する語において[p^ʔ]がみられる。[p^ʔi:]（火）[p^ʔigi]（髭）[p^ʔuju:]（冬）

⑦共通語のホは、[puĩ]（星）[ɸuni]（骨）のように[pu]と[ɸu]に対応する。

¹ 津波高志他(1982)による。

² 大兼久方言の音韻の概要については中本（2018）で示したが、動詞活用、形容詞活用を体系的に記述するにあたり音韻表記を用いるため、再度、主な特徴も含め拍体系表を示す。

なお、本報告の動詞、形容詞の活用を中心とした資料は、奥島菊江氏（1928年生・生え抜き）によるものである。調査は2019年11月から12月にかけて臨地調査を行った。

3 大兼久方言の拍体系表³

/ʔi/	/ʔe/	/ʔa/	/ʔo/	/ʔu/	/ʔja/		/ʔju/			/ʔwa/	
イ	エ	ア	オ	ウ	ツヤ		ツユ			ツワ	
[ʔi]	[ʔe]	[ʔa]	[ʔo]	[ʔu]	[ʔja]		[ʔju]			[ʔwa]	
/i/	/e/			/ʷu/	/ja/	/jo/	/ju/		/we/	/ʷa/	
イイ	イエ			ウウ	ヤ	ヨ	ユ		ウエ	ワ	
[ji]	[je]~[e]			[wu]	[ja]	[jo]	[ju]		[we]	[wa]	
/hi/	/he/	/ha/	/ho/	/hu/	/hja/			/hwi/	/hwe/	/hwa/	/hwu/
ヒ	ヘ	ハ	ホ	フウ	ヒヤ			フィ	フェ	ファ	フ
[çi]	[he]	[ha]	[ho]	[hu]	[ça]			[fi]	[fe]	[fa]	[fu]
/kʰi/				/kʰu/					/kʰwe/		
ツキ				ツク					ツクエ		
[kʰi]				[kʰu]					[kʰwe]		
/ki/	/ke/	/ka/	/ko/	/ku/		/kjo/				/kwa/	
キ	ケ	カ	コ	ク		キョ				クワ	
[ki]	[ke]	[ka]	[ko]	[ku]		[kjo]				[kwa]	
/gi/	/ge/	/ga/	/go/	/gu/						/gwa/	
ギ	ゲ	ガ	ゴ	グ						グワ	
[gi]	[ge]	[ga]	[go]	[gu]						[gwa]	
/tʰi/		/tʰa/									
ツティ		ツタ									
[tʰi]		[tʰa]									
/ti/	/te/	/ta/	/to/	/tu/							
ティ	テ	タ	ト	トゥ							
[ti]	[te]	[ta]	[to]	[tu]							
/di/	/de/	/da/	/do/	/du/							
ディ	デ	ダ	ド	ドゥ							
[di]	[de]	[da]	[do]	[du]							
/cʰi/											

³ 語頭において母音単独の前では、/ʔ/グロツタルストップ（声門閉鎖音）があらわれるが、便宜的にカタカナ表記では、省略して示す。

ツチ [tʃ ² i]											
/ci/	/ce/	/ca/	/co/	/cu/							
チ [tʃi]	チェ [tʃe]	チャ [tʃa] ~[tʃa]	チョ [tʃo]	ツ [tʃu]							
/si/	/se/	/sa/	/so/	/su/							
シ [ʃi]	セ [se]	サ [sa]	ソ [so]	ス [su]							
/zi/		/za/	/zo/	/zu/							
ジ [dʒi]		ザ [dza] ~[dʒo]	ゾ [dzo]	ズ [dzu]							
/ri/	/re/	/ra/	/ro/	/ru/							
リ [ri]	レ [re]	ラ [ra]	ロ [ro]	ル [ru]							
/ni/	/ne/	/na/	/no/	/nu/							
ニ [ni]	ネ [ne]	ナ [na]	ノ [no]	ヌ [nu]							
/p ² i/				/p ² u/							
ツピ [p ² i]				ツプ [p ² u]							
/pi/	/pe/	/pa/	/po/	/pu/							
ピ [pi]	ペ [pe]	パ [pa]	ポ [po]	プ [pu]							
/bi/	/be/	/ba/	/bo/	/bu/							
ビ [bi]	ベ [be]	バ [ba]	ボ [bo]	ブ [bu]							
/mi/	/me/	/ma/	/mo/	/mu/							
ミ [mi]	メ [me]	マ [ma]	モ [mo]	ム [mu]							
/N/[n,m,ŋ,N]ン											
/Q/[p,s,t,k]ッ											
/i/[:] /e/[:] /a/[:] /o/[:] /u/[:] ー											

4. 動詞活用

4. 1 活用の分類

大兼久方言の動詞の語幹を末尾に注目し分類すると〈表1〉のように6類に分けられる。

〈表1〉

	基本語幹 1	基本語幹 2	連用語幹	派生語幹	接続語幹
1類	C	C	C	CV	C
2類	CVC	CVC	CV	CVV	CV(Q)C
3類	CV	CV	CV	CVV	CVVC
4類	'wur	'wur	'wu'	'wu	'wuQt
5類	k	k	k	ku	ci
6類	s	s	s	su	si

(* C=子音、V=母音、Q=促音を表す)

4. 2 動詞活用体系

〈表1〉のそれぞれに基づいて、代表例をもって語幹と語尾とに分けて表示すると〈表2〉のようになる。音韻レベルで示し、 ϕ 記号は、語尾がゼロであることを意味する。

4. 3 活用表

〈表2〉を具体的に音声レベルで示すと〈表3〉のようになる。

〈表2〉

分類	動詞	基本語幹 1	志向形	未然形	基本語幹 2	命令形	連用語幹	連用形
1	書く	hak	a	a	hak	ee	hak	i
2	言う	?ir	a	a	?ir	ee	?i	i
3	洗う	?ara	a	a	?are	e	?are	e
4	居る	'wur	a	a	'wur	ee	'wu'	i
5	来る	k	uu	aa	k	ree	k	i
6	する	s	aa	a	s	ee	s	i
主な接尾形式			na (ね)	'N (ない)				busa'N (たい)

分類	動詞	派生語幹	終止形	連体形	du 結び び形	準体形	接続語幹	接続形
1	書く	haku	'N	'N	ru	φ	hac	i
2	言う	?ii	'N	'N	ru	φ	?ic	i
3	洗う	?aree	'N	'N	ru	φ	?araat	i
4	居る	'wu	'N	'N	Ru	i	'wutt	i
5	来る	ku	'N	u'N	ru	u	ci	i
6	する	su	'N	'N	ru	u	si	i
主な接尾形式				体言		mi (か)		k a r a (から)

〈表3〉

1類

動詞	志向形	未然形	命令形	連用形	終止形
書く	haka	haka	hake:	haki	hakun
行く	?ika	?ika	?ike:	?iki	?ikun
漕ぐ	huga	huga	hege:	hugi	hugun
眠る	nimba	nimba	nimbe:	nimbi	nimbun
飛ぶ	tuba	tuba	tube:	tubi	tubun
読む	juma	juma	jume:	jumi	jumun
動詞	連体形	du 結び形	準体形	接続形	
書く	hakun	hakuru	haku	hatji	
行く	?ikun	?ikuru	?iku	?idzi	
漕ぐ	hugun	huguru	hugu	hudzi	
眠る	nimbun	nimburu	nimbu	ninti	
飛ぶ	tubun	tuburu	tubu	turi	
読む	jumun	jumuru	jumu	juri	

2類

動詞	志向形	未然形	命令形	連用形	終止形
言う	?ira	?ira	?ire:	?i:	?i:N
切る	k?ira	k?ira	k?ire:	k?i:	k?i:N
見る	mira	mira	mire:	mi:	mi:N
起きる	?ukira	?ukira	?ukire:	?uki:	?uki:N
落ちる	?utira	?utira	?utire:	?uti:	?uti:N
受ける	?ukira	?ukira	?ukire:	?uki:	?uki:N

動詞	連体形	du 結び形	準体形	接続形
言う	?i:N	?i:ru	?i:	?itji
切る	k?i:N	k?i:ru	k?i:	k?ittji
見る	mi:N	mi:ru	mi:	mittji
起きる	?uki:N	?uki:ru	?uki:	?ukiti
落ちる	?uti:N	?uti:ru	?uti:	?utiti
受ける	?uki:N	?uki:ru	?uki:	?ukiti

3類

動詞	志向形	未然形	命令形	連用形	終止形
洗う	?ara:	?ara:	?are:	?are:	?are:N
笑う	wara:	wara:	ware:	ware:	ware:N
動詞	連体形	du 結び形	準体形	接続形	
洗う	?ara:N	?are:ru	?are:	?ara:ti	
笑う	wara:N	ware:ru	ware:	wara:ti	

4類・5類・6類

動詞	志向形	未然形	命令形	連用形	終止形
居る	Wura	wura	wure:	wui	wun
来る	ku:	ka:	ku:	ki:	kun
する	sa:	san	se:	si:	sun
動詞	連体形	du 結び形	準体形	接続形	
居る	wun	wuiru	wui	wutti	
来る	ku:N	ku:ru	ku:	tji:	
する	sun	suru	su:	si:	

4. 4 活用の用法

以下、大兼久方言の活用の用法について示す。

(1) 志向形

①そのままの形で用いられる。

mandzui dʒi: haka: (一緒に字を書こう)

mandzui kʰiN ʔara: (一緒に着物を洗おう)

mandzui humane: wura: (一緒にここに居よう)

mandzui ʃiɡutu sa: (一緒に仕事しよう)

②ja: (ね) を後続させる。

mandzui ʔiraja: (一緒に言おうよ)

mandzui ʔara:ja: (一緒に洗おうよ)

③na (よ) を後続させる。

mandzui kʰiN ʔara:nna. (一緒に着物を洗おうよ)

(2) 未然形

①N (ない) がつき、否定の意味をあらわす。

dʒi:ja hakan (字は書かない)

ʔutahataja nu:etiN ʔiran (弟は何も言わない)

ʔanma:ja ju:ban tsukuitu ʔara:nna

(お母さんは夕飯を作るから洗わない。)

mutu he:ti taruN wuraN (みんな帰って今は誰もいない)

wubama:ja ka:N (おばさんは来ない)

su:ja nu:N san (今日は何もしない)

②sun (せる)、ʃimi:N (せる) を後続させる。

kwa:ne: dʒi: hakasunro: (子どもに字を書かせるよ)

ʔutahatane: kʰiN ʔara:ʃimira (妹に着物を洗わせよう)

(3) 命令形

命令形は次のように用いられる。

ʔe:ku hake: (早く書け)

hakuna: ?ire: (早く言え)

φe:ku k[?]iN ?are: (早く着物を洗え)

humane: wure: (ここに居ろ)

huma:tʃi ku:ba (ここに来い)

hakuna: se: (早くしろ)

大兼久方言では、例えば「書く」の命令形は **hake:** であらわされ、**haki** の形は確認できない。

(4) 連用形

連用形は次のような用法が認められる。

①busan (たい)、jassan (やすい)、guruhan (にくい) などを後続させる。

dzi: hakibusan (字を書きたい)

φe:ku huri ?i:busan (早くこれを言いたい。)

φe:ku tʃira ?are:busan (早く顔を洗いたい。)

humane: wuibusan (ここに居たい)

huma:tʃi ki:busan (ここに来たい。)

φe:ku huri ʃi:busan (早くこれをしたい)

②助詞 ga (に) を後接させる。

?umu φuiga ?ikundo: (芋掘りに行くよ)

③nunse: を後続させ条件をあらわす。

?ja:ga hakinunse: wa:ga jumun (君が書いたら、私が読む)

?ja:ga ?are:nunse: ki:sa (あなたが洗うなら着るよ)

?ja:ga ku:nunse: kamaja: (君がきたら食べよう)

大兼久方言の条件をあらわす形は、「書く」の例でいうと、**hakinunse:** であり、**hakaba** (書かば)、**hake:** (書けば) のような形は確認できない。

(5) 終止形

終止形では次のような用例が認められる。

dzi: hakun (字を書く)

?anne: ?i:nro: (彼に言うよ)

wa:ga k[?]iN ?are:nro: (私が着物を洗うよ)

me:nitʃi humane: wunro: (毎日ここに居るよ)

?atʃa ?utahataga kunro: (明日弟が来るよ)

wanja me:nitʃi ʃigutu sunro: (私は毎日仕事をするよ)

(6) 連体形

連体形は、次のように用いられる。

hakuntsu:ja wuran (書く人はいない)

?i:ntsu:ja taruga (言う人は誰か。)

?are:ntsu:ja taruga (洗う人は誰か。)

hamane: wuntsu:ja taruga (ここに居る人は誰か。)

huma:tji ku:ntsuja wuran (ここに来る人はいない。)

huri suntsu:ja wuran (これをする人はいない。)

(7) ru 結び形

ru 結び形は次のように用いられる。ru のかかる形式は -ru で結ぶ。

dzi:ru hakuru (字をぞ書く)

wangaru ?i:ru (私がぞ言う)

wangaru ?are:ru (私がぞ洗う)

wangaru wuiru (私がぞ居る)

kikuegaru ku:ru (菊江がぞ来る)

figuturu suru (仕事ぞする)

因みに大兼久方言では、ga (か) の結びはみられない。例えば沖縄中南部の奥武方言では、ta :gaga tsu:ra wakaran (誰が来るか分からない) のように ga (か) が [-ra] の形 (ラ結び形) と呼応し、疑問をあらわす用法がみられた。しかし大兼久方言では tarugaga ku:ra wakaran (誰が来るかわからない) のようになり、ラ結び形は確認できない。

(8) 準体形

準体形は、以下のようになる。

mi (か)、jiga (が。けれども) 等が後続する。

wa:ga hakumi (私が書くか)

wa:ga ?are:mi (私が洗うか)

以上、(5) 終止形～(8) 準体形の他に派生語幹をもとにして、以下の形式も形成される。

hakutan (書いていた*過去における動作の進行を表す)

(9) 接続形

接続形は以下のようなになる。kara を後続させる。

hatʃikara ʔikusa (書いてから行くよ)

ʔja:ga ʔitʃikara wa:ga ʔi:sa (君が言ってから私が言うよ)

ʔja:ga ʔara:tikara ʔikaja: (君が洗ってから行こうね)

ʔja:ga tʃi:kara ʔikaja: (君が来てから行こうね)

接続形にʔa_N (ある) が複合して次のような派生形式をつくる。

hatʃa_N (書いた。過去)

5. 形容詞活用

5. 1 活用の分類

形容詞を語幹の末尾に着目し分類すると次の2類〈表1〉に分けられる。

〈表1〉

		基本語幹	派生語幹	接続語幹
1	a	CV	CVCV	CVCVC
	b	CVV	CVVCV	CVVCVC
2		CV	CV	CVC

(* C=子音、V=母音を表す)

5. 2 形容詞活用体系

大兼久方言の形容詞の活用はいわゆるク活用とシク活用の区別はない。代表例をもって語幹と語尾に分けて示すと〈表2〉のようになる。音韻レベルで示し、ϕ記号はゼロを意味する。

5. 3 活用表

〈表1〉の分類に基づいて、大兼久方言の形容詞活用を具体的に音声レベルで示すと〈表3〉のようになる。

〈表 2〉

分類	形容詞	基本語幹	連用形 1	派生語幹	条件形	連用形 2	終止形	連体形	理由形	du 結び形	準体形
1 a	高い	taka	ku	takaha	ree	'i	'N	'N	nu	'iru	'i
1 b	早い	hwee	ku	hwecha	ree	'i	'N	'N	nu	'iru	'i
2	軽い	gaQsa	ku	gaQsa	ree	'i	'N	'N	nu	'iru	'i
主な接尾形式			na'i'N (なる)					体言			mi (か)

接続語幹	接続形
takahat	i
hweehat	i
gaQsat	i
	'N (も)

分類 2 の語幹は、分類 1 に類推すれば、基本語幹は gaQ となりそうであるが、sa が入る。

〈表 3〉

1 類 a

形容詞	連用形 1	条件形	連用形 2	終止形	連体形
高い	takaku	takahare:	takahai	takahan	takahan
長い	nagaku	nagahare:	nagahai	nagahan	nagahan
大きい	magiku	magihare:	magihai	magihan	magihan
重い	?ubuku	?ubuhare:	?ubuhai	?ubuhan	?ubuhan
暑い	?atjiku	?atjihare:	?atjihai	?atjihan	?atjihan
美しい	kuraku	kurahare:	kurahai	kurahan	kurahan
涼しい	firaku	firahare:	firahai	firahan	firahan
怖い	?uturaku	?uturahare:	?uturahai	?uturahan	?uturahan
恥ずかしい	φadzikaku	φadzikahare:	φadzikahai	φadzikahan	φadzikahan
形容詞	理由形	du 結び形	準体形	接続形	
高い	takahanu	takahairu	takahai	takahaiti	
長い	nagahanu	nagahairu	nagahai	nagahaiti	
大きい	magihanu	magihairu	magihai	magihaiti	
涼しい	?ubuhanu	?ubuhairu	?ubuhai	?ubuhaiti	
暑い	?atjihanu	?atjihairu	?atjihai	?atjihaiti	
美しい	kurahanu	kurahairu	kurahai	kurahaiti	
重い	firahanu	firahairu	firahai	firahaiti	
怖い	?uturahanu	?uturahairu	?uturahai	?uturahaiti	
恥ずかしい	φadzikahanu	φadzikahairu	φadzikahai	φadzikahaiti	

1 類 b

形容詞	連用形 1	条件形	連用形 2	終止形	連体形
早い	φe:ku	φe:hare:	φe:hai	φe:han	φe:han
強い	tsu:ku	tsu:hare:	tsu:hai	tsu:han	tsu:han
遠い	tu:ku	tu:hare:	tu:hai	tu:han	tu:han
形容詞	理由形	du 結び形	準体形	接続形	
早い	φe:hanu	φe:hairu	φe:hai	φe:haiti	
強い	tsu:hanu	tsu:hairu	tsu:hai	tsu:haiti	
遠い	tu:hanu	tu:hairu	tu:hai	tu:haiti	

2 類

形容詞	連用形 1	条件形	連用形 2	終止形	連体形
軽い	hassaku	hassare:	hassai	hassan	hassan
悪い	wassaku	wassare:	wassai	wassan	wassan
形容詞	理由形	du 結び形	準体形	接続形	
軽い	hassanu	hassairu	hassai	hassaiti	
悪い	wassanu	wassairu	wassai	wassaiti	

5. 4 活用形の用法

各活用形の主な用例を示す。

(1) 連用形 1

takinu takakunainro: (背が高くなるよ)

su:ja φe:ku ?ukitan (今日は早く起きた)

(2) 条件形

takahare: ho:ranke: (高いなら買うな)

?itsunahare: tanumaran (忙しいなら頼めない)

* takahare: は、takasaare (高さあれ) + wa (ば) からの変化によるものであると考えられる。

(3) 連用形 2

takahai_gisa: (高そう)

(4) 終止形

①助詞が後接しない。

huriga nagahan (これが長い)

?ja:ga wassan (君が悪い)

②助詞が後接する。

humaja firahanro: (ここは涼しいよ)

(6) 連体形

takahançi: (高い木)

?itsunahantsu:ja ka:n (忙しい人は来ない)

(7) 理由形

?uturuhanu ?ikan (怖いので行かない)

(8) ru 結び形

ru のかかる形式は -ru で結ぶ。

wa:garu wassairu (私がぞ悪い)

*動詞と同様に ga 結び形はみられない。

(9) 準体形

ji_ga (けれども) mi (か) 等が後続する。

takahai_giga horai: (高いけれども買おうね)

ʔan tsuːja kurahaimi (あの人は美しいか)

(10) 接続形

接続形は次のように用いられる。

wanja takahatin hoːin (私は高くても買う)

magahaitin hassan (大きくても軽い)

参考文献

- ・内間直仁(1984)『琉球方言文法の研究』笠間書院
- ・内間直仁、新垣公弥子(2000)『沖縄北部・南部方言の記述的研究』風間書房
- ・津波高志他(1982)『沖縄国頭の村落』新星図書出版
- ・名護市史編纂委員会(2006)『名護市史本編・10 言語』名護市
- ・中本謙(2017)「沖縄県奥武方言ー動詞・形容詞の活用を中心にー」『文化庁委託事業報告書 平成 28 年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学国際沖縄研究所
- ・中本謙(2018)「沖縄県大宜味村大兼久方言の記述ー格助詞・とりたてを中心にー」『文化庁委託事業報告書 平成 29 年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学国際沖縄研究所
- ・琉球方言研究クラブ(1992)『琉大方言 7 号 津波方言の音韻』
- ・ローレンス・ウェイン (2004)「大宜味村田嘉里方言の音調体系」『琉球の方言』29 号 法政大学沖縄文化研究所
- ・ローレンス・ウェイン(2010)「大宜味村方言の音韻について : 附 大宜味村四地点音調資料」『琉球の方言』35 号法政大学沖縄文化研究所